

授業概要

「保育原理」では、保育士として主に乳幼児を保育するうえで必要な基本的な考え方および対応の在り方を習得する。

そのために、「保育原理」では、まず、保育にあたって不可欠な、保育に関わる思想や歴史および現状や課題を含む保育の原理に関する基本的な知識を習得し、その内容と対応させながら、目標、方法、実践、記録および評価といった保育の実践のための授業を実施する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	保育の理念および概念
第3回	保育の原理
第4回	「保育所保育指針」と保育
第5回	発達過程に応じた保育
第6回	保育士の専門性
第7回	保育の目標
第8回	保育の方法1
第9回	保育の方法2
第10回	保育の計画
第11回	保育の実践
第12回	保育の記録
第13回	保育の評価
第14回	保育の思想と歴史
第15回	保育の現状と課題
第16回	試験

到達目標

保育において必要な基本的な知識および考え方について説明できる。

保育において必要な基本的な技能について説明し実践できる。

保育士という専門職であるために、個人の主体的な学習、および、受講者間での共同的な学習を実践できる。

履修上の注意

「保育原理」は、保育に必要な基本的な知識や技能を習得する授業である。そのため、受講生には、保育士という専門職として、幼い子どもたちのいのちを守り、かつ、最も幼い段階から子どもたち一人ひとりの発達および発達を支援する役割を果たすのだという高い意識と誇りをもって、主体的に授業に参加し内容の習得に努めることを求める。

予習復習

「保育原理」では、受講生の学習内容や学習習慣の定着の支援、および、保育の質の向上を実現するために、以下の方法により、復習を重点化した授業を実施する。

1. 授業に係る課題の提出を求め、授業への参加および課題の提出をあわせて出席とみなす措置をとることがある。
2. 事前に周知したうえで、授業の習得度を確認する試験を実施することがある。

評価方法

参加態度、課題（50%）。

試験（50%）。

以上を総合的に評価する。

テキスト

1. 佐藤康富編著『新しい保育原理』大学図書出版 2018. (ISBN 987-4-907166-80-9)
 2. 『保育所保育指針』フレーベル館。
- 参考文献については授業中に提示する。